

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 魅力発信事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,296千円 (前年度予算額：3,296千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,296	0	0	0	0	0	0	0	3,296
要求額	3,296	0	0	0	0	0	0	0	3,296
決定額	3,296	0	0	0	0	0	0	0	3,296

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県現代陶芸美術館は東濃の地にあつて地元根付いたやきものに特化した美術館であるが、世界の現代陶芸を収集する特色ある美術館でもある。その魅力をやきもの愛好家に限らずより広く紹介するために、幅広いジャンルから講師を呼び、講演会・対談、ワークショップなどを行うことにより、近隣のみならず遠方、ひいては海外からも新しい来館者を集め、観光振興に努める。また、幅広いジャンルの催事開催を通じて、当館が地元の陶芸文化や陶磁器産業への刺激となること、新たな創造のきっかけとなることを目指す。

(2) 事業内容

① 講演会・対談

陶芸を他ジャンルとの交流や、歴史・文化のより広い観点などから捉えるために、各方面の専門家を呼んで講演会・対談を行う。

② ワークショップ

デザイナー、美術家、音楽家等、陶芸以外のジャンルから講師を呼び、美術館の施設や作品を使ってワークショップや実演を行う。

③ 企画展やコレクション展示との連携

ワークショップ、講演会を企画展などの作品展示と関連付けることによって、事業の魅力を知らせて誘客をはかる。

(3) 県負担・補助率の考え方

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	350	講師謝金
旅費	352	打合旅費、講師費用弁償
消耗品費	75	消耗品代、材料費
会議費	17	講師昼食代
役務費	90	郵送料、保険料
委託料	2,216	ワークショップ・実演委託、広告委託、印刷物作成委託
使用料	196	会場借上料
合計	3,296	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 「ぶらり立ち寄る」県民の憩いの場となる美術館を目指して、地域振興・観光誘客に貢献する。
 これまで、陶芸の魅力を広く周知させるために陶磁器に関わる様々な催事を開催してきたが、新たな文化振興、誘客をはかるべく、多様なジャンルとの交流をテーマに講演会やワークショップ等を行い、近隣のみならず遠方から新しい来館者を集めて、陶芸の魅力を広く拡散させることを目的とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
入場者数		29,714	12,700	31,200		105%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	○取組内容 ① 講演会等 <ul style="list-style-type: none"> ・講演（配信）「世界の野生動物を追って」 前川貴行（動物写真家） ・講演「日本のガラス工芸史における岩田藤七、久利、糸子」 齊藤晴子（町田市立博物館学芸員） 令和3年7月31日（土） ・講演（開催、後日配信）台湾展関連企画 江淑玲（鶯歌博物館学芸員） ・講演（開催&配信）台湾展関連企画 青木由香（エッセイスト）
-------	---

② ワークショップ

- ・知る造形講座「入江明日香の色彩銅版画にチャレンジ」
入江明日香（美術家）
令和3年7月17日（土）
- ・知る！造形講座「森を歩けばひらめきに出会う」
天野裕夫（彫刻家・多摩美術大学工芸学科客員教授）
令和3年7月22日（木・祝）・23日（金・祝）
- ・造形講座「ガラスのトンボ玉をつくろう」
わくわく体験館ガラス工芸講師
令和3年8月15日（日）
- ・台湾茶会
安藤雅信（陶作家・ギャラリー百草廊主）
令和3年10月23日（土）

○成果

- ・全国に魅力ある事業を発信することによって、当施設の存在を広く知らせることが、岐阜県と県の誇る文化、地場産業のPRにつながる。
- ・陶芸と他ジャンル（現代美術作家、写真家等）とを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらい機会を作ることができた。
- ・引き続き分野横断的な事業を実施することにより、新規来館者が見込めるほか、将来的に当館や当地域における幅広い交流のきっかけを作ることができる。
- ・様々な視点からやきものを捉えた催事を実施することにより、やきものが常に社会や文化、生活と深く結びついていることを深く理解する機会となる。例えば H31 年度に開催した連続ワークショップ「土にふれる・土をしる」では、実際に原料の山に出かけたり、自ら焼成したりするなどの体験を通じて、陶磁器制作の過程を深く多角的に学ぶことができたとの感想が参加者より多く寄せられた。

令和3年度

令和5年度当初予算にて追加

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

令和4年度

令和6年度当初予算にて追加

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	<ul style="list-style-type: none">・世界の陶磁器を有する当館の特性を、様々なジャンルとの交流を通して広くPRすることによって、新しい来館者を獲得することができる。・多様な催事を通じて、来館者の目を展示そして陶磁文化に向けることにより、将来的に当地域の文化・地場産業の振興・知名度向上へ繋がることを期待できる。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	<ul style="list-style-type: none">・陶芸と他ジャンルとを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらう機会を作ることができる。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	<ul style="list-style-type: none">・令和4年度は、多くの場合、各催物を展覧会に関連させることによって、来館者が催物によって展示の理解を深められるように配慮し、集客面でも展覧会と催物の双方から来館者を呼ぶことを目指している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none">・催事の内容について、一般の人々の興味関心をリサーチしながら、広い視野で内容の充実を図り、多様な関心に応える催事を計画していくことが必要である。・新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、対面型の催事においては感染症対策を徹底する必要がある。また、感染症の拡大防止や様々な理由により実際に足を運ぶことができない潜在的な利用者に向けて、オンライン上の催事など新たな方向性を検討、実施していくことが必要である。
--

(次年度の方向性)

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
- ・ 常に新しい情報を収集しながら、陶芸と隣接ジャンルとの交流を継続的に行うことによって、より広いネットワークを形成し、新たなネットワークを生かして次なる事業を計画、継続していく。
- ・ 講演会とワークショップを中心に、より魅力的な催物の企画に努める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	